

第2回まちづくり市民協議会
平成25年4月18日(木)

まちづくりと市民協議会（資料）

(1) 平成25年度施政方針（抜粋）

(2) 平成25年度企画調整課の予算概要

施 政 方 針 (抜粋)

はじめに

平成25年度の予算案並びに諸議案の提出にあたり、市政運営に臨む私の所信の一端と諸施策の概要を申し上げ、議会をはじめ、市民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

私は、昨年10月、多くの市民の皆様方のご信任をいただき、再び、市長という重責を担わせていただくこととなりました。第三代光市長として初めて編成した本予算は、政治理念として掲げております「やさしさ」を注ぎ込んだものであり、これからも、光市のリーダーとして、市民の皆様の負託を胸に、市民の皆様のための政治を貫いていく決意を新たにしているところであります。

目指すべき社会

では、求められる「政治」とは、何でありましょうか。申すまでもなく、政治の本質につきましては、アメリカの政治学者であるデビッド・イーストンの定義が一般的であります。彼は、「政治」を「社会に対する価値の権威的配分」と定義づけ、「政治により、社会の中の利益や負担を再配分し、その決定に人々が拘束され、その決定に対する社会からの圧力（いわゆる異議や反発）に政府が対応すること。」としております。

言い換えますと、政治家の使命とは、都市の将来像や政策を示した上で、選挙という形で市民の判断を仰ぎ、その負託を基に、自らの政策を決定・実行し、その結果に責任を持つことでもあります。

私自身、この4年間、2つの市立病院のあり方や三島温泉健康交流施設の見直しなど、多くの課題について、明確な方向性を指し示した上で、自らの責任において、

「決断」を下し、当面する課題を克服してまいるとともに、将来の光市の目指すべき姿と政策を「総合計画後期基本計画」という形でお示したところであります。

こうした中、多くの皆様のご信任をいただき、2期目を担うこととなりました。申し上げるまでもなく、2期目となります私の使命は、これらの政策を実現へと導き、実行した上で、その成果を「幸せ」や「満足」としてお届けすることであると考えております。

無論、政策実現への道筋は、た易いものではなく、解決すべき課題や乗り越えるべき多くの障壁が立ちはだかっている訳であります。

私自身、リーダーとして、先頭に立ち行動することで、政治家としての使命を果たす所存であります。イーストンの定義に沿って、市民の税金で紡いだ価値を行政サービスという形で再配分することだけが政治家の使命や役割ではなく、決して忘れてはならない、原理・原則がそこに存在すると思うのであります。

その原理・原則とは、政治学の原点でもある哲学の世界に立ち返ることではありますが、哲学者であるアリストテレスは政治学を「善い社会の実現を試みるためのマスターサイエンスである」と位置付けております。政治とは人々にとっての理想社会である「善い社会」を実現するために社会や市民に働きかけることであり、政治家は「善い社会」を実現することを政治使命とすべきであります。

私は、政策を実現するための平成25年度予算を編成するにあたっては、常に「善い社会」の実現を念頭に置いたところでありますし、その実行に際しては、公平・公正な市政運営を貫いてまいり所存であります。今回、予算という形で、政策を具現化するための「事業」や「道しるべ」をお示したところでありますが、一方的な自らの意思や行動のみでは、その実現は、望むべくも無いことは、明らかであります。

政策の具現化に不可欠なもの、それは、組織なり職員なりの力であり、市民や地

域の力であると考えております。こうした力を結集するため、私は、この4年間、昼夜を問わず、市民の皆様や職員との「対話」に努めてまいったところであります。

昇華への道筋

もちろん、「対話」を重ねることにより、既に「調和」への兆しは生まれつつあります。その「調和」を、「人の輪」という「強い力やうねり」に変えていくには、組織力と市民力をもう一段上の高みへと昇華していく必要があります、そのためにも、開きつつある蕾に、肥料や栄養、時には薬剤を注入することで、大輪の花を開花させることを念頭に置いた取組みを展開してまいることといたしました。

「組織力」の開花

まずは、「組織力」の開花であります。

私は、この4年間、政策を具体的施策や事業へと繋げていくために職員一人ひとりの能力を最大限に発揮するための様々な工夫に取り組んでまいりました。多くの職員が能力を発揮し汗を流す中で、様々な分野で政策が開花している一方で、公務員制度の限界なのか、残念ながら、依然として、市民の皆様からお叱りを受ける職員が存在し、その一握りの職員が組織力を大きく低下させているという現実があります。

これは、由々しき問題であり、私は、これまで以上に「厳しさ」を持って、こうした職員に対しても「正当な評価」を行うことが「公平・公正」であるとの信念のもと、「人事評価制度」の試行に着手してまいりましたが、本年度からは、こうした取組みを次の段階へとステップアップしてまいります。

そのための一つが第三者機関による窓口満足度のアンケート調査の実施であり、市民の皆様からの客観的な意見をいただくことにより、職員のさらなる意識改革に

つなげることといたしました。加えて、人材育成の基本となります人事評価制度につきましても、これまで以上に厳しい視点での制度運用を行い、厳正な態度を持って対処することで、真に誠実な職員が報われ、組織力を如何なく発揮できる「株式会社光市」を再構築することといたしました。

「市民力」との協働

もう一方は、既に大きく花開いている「市民力」との協働であります。

申し上げるまでもなく、地方分権一括法の施行や地域主権改革により、拡大される地方自治体の権限や裁量範囲を着実に実行していくための鍵として「住民自治」の原則を踏まえた「新しい公共」による取組みが求められております。本市においても、「市民活動推進のための基本指針」に基づき、公民館の自主運営をはじめとする住民主体の地域づくり、すなわち住民自治の実現に向けた取組みを市民の皆様とともに推進してきたところであります。

この住民自治につきましても、地方分権改革推進会議において、「地域社会は、そもそも地域に住む人々が相互に助け合い、自分たちの住む地域を維持し、よりよくしていこうとする『共助』を原理とする共同体」であり、住民自治の原点は、「共同体を維持していくために必要な様々な公共サービスについて、住民が知恵を出し合って決め、住民によって供給していくことである。」と定義づけられております。

この「住民自治」なり「共助」につきましても、すぐ傍まで近づいている「超高齢社会」における地域社会のあり様を展望した時、住み慣れた地域において安心して暮らしていくためには、「必ず参加し、等しく与える」という新たな概念に基づく相互扶助の仕組みである「共助」を基本とする住民自治へと進化していくことが求められておりました。私は、住民自治こそが、「新しい公共」を構成する重要な要素であると信じております。

このため、本年度は、市民力との協働によるまちづくりの深化に向けて、真の住民自治を見据えた新たな取組みとして、「新しい公共」の担い手となる市民活動団体の公益的活動を支援するための「元気なまち協働推進事業」に着手するほか、地域が目指すべき姿を指し示す「コミュニティ推進基本方針」を策定する中で、地域と行政とが相互に協力する新たな地域のあり様についても模索してまいりたいと考えております。

以上が、市政運営にあたっての、私の所信の一端であります。こうした取組みにより、「善い社会」、すなわち、このまちに暮らす全ての人々に「幸せ」と「満足」を届けられる社会の実現に向けて、チーム光市として総力を挙げた取組みを展開してまいり所存であります。

どうか、議会をはじめ、市民の皆様には、行政との垣根を越えて、忌憚りの無いご意見やご提言をいただきますとともに、お一人お一人が理想のまちづくりを進める担い手としてご参画いただきますことを切にお願いするものであります。

《 中 略 》

む す び

さて、本年度の予算について、様々な角度からご説明をいたしました。しかしながら、只今、私がお示しした一般会計219億円と特別会計約162億円、合わせて約381億円という予算だけで光市が運営されているわけではありません。この予算に、冒頭申し上げました「市民力」、すなわち市民の皆様方のボランティアや自発的な活動などが加わって、我が故郷「光市」は動いているのであります。

「市民力」は、クリーン光大作戦、自治会の活動、子どもたちの見守り活動などはもとより、道に落ちているごみを一つ拾うこと、あるいは近所の人や子どもたち

に明るく接することなど様々な場面で発揮されますが、私は、これら一つ一つが、皆様からいただいた隠れた予算だと思っております。そして、この隠れた予算が大きければ大きいほど、市民生活が豊かになることは間違いありません。

また、私はこれまでに幾度となく「株式会社光市」という言葉を使ってまいりましたが、このように、行政と市民の皆様の協働により市民生活を豊かにしていくことは、株式会社というよりは、むしろNPOの活動に近いように思えます。しかしながら、株式会社光市であれ、NPO光市であれ、その組織には強さとしなやかさが求められることは、言うまでもありません。

私は、組織の強さの源泉は、目的と意思を共有することだと考えております。光市という組織を考えた時、求められるのは市民の皆様との情報の共有であり、これが組織のしなやかさにつながっていくものだと、私は確信をしております。

終わりに、「対話・調和・人の輪」という私の政治信条を、今一度、心に刻み、市民の皆様とともに、「やさしさあふれる 『わ』のまち ひかり」の実現に全力を尽くしていく覚悟であります。議会をはじめ、市民の皆様のご支援とお力添えを心からお願い申し上げます、本年度の施政方針といたします。

平成25年度企画関係予算の概要(歓別事業概要抜粋)

(単位:千円)

件名	内容	予算額
総合計画後期基本計画の推進	7つの未来創造プロジェクトを核とする後期基本計画の推進(仮称)政策工程表に基づく評価・検証方式の構築、まちづくり市民協議会の開催、市民アンケート(2,000人)の実施 など	682
市民対話集会	「対話」を通じて市政に対する市民への情報発信と説明責任を果たすとともに、市民と行政の協働によるまちづくりを推進するため実施 平成25年度は、「防災」をテーマとして、市内4会場で開催	36
地域間交流事業	友好交流の誓いを交わしている千葉県横芝光町との交流を展開 平成25年度は、「里の厨」を中心とする特産品の販売に加え、「横芝光町産業まつり」に参加し、本市PR及び特産品の試食販売等を実施	311
国際交流事業	国際交流活動の促進と市民の国際理解の醸成 国際交流事業への補助など	251
ふるさと光の会	光市出身者との絆を深めるとともに、人口定住に寄与するため、「ふるさと光の会」へ交付金を支出	300